

2026 年度 出題の意図

科目名：政治・経済

出題の基本方針：

出題形式は大問4題、解答総数は40～50個程度です。出題形式の大部分は記述と選択式が中心となっています。試験範囲は、高校で学習する政治・経済の講義の範囲を中心に、それらに関する法律、社会などの各分野から幅広く出題しています。

出題範囲は、教科書や資料集などの高校の授業で学習する内容が中心となっています。したがって、解答のほとんどは教科書、資料集、用語集など、高校の教材で確認できるレベルとなっています。他方、一部分ですが、時事問題に関して問う内容もあります。なお、その意図は、高校で学んできた知識を応用しながら解答できるレベルとなっています。

以上、入試の準備にあたっては、高校で学んだことだけではなく、新聞やテレビ、その他メディアなどで取り上げられた現代社会についても日々目を配るようにして下さい。また、高校での関連科目の学びだけではなく、実社会で話題となっていること。また、政治経済において注目されていることについても関心を持つようにし、時には世代を超えて周囲の人と社会の出来事に関する話題に耳を傾けるなど、心がけて下さい。

次に、本学の出題の中には、グラフや図表を用いた政治経済に関する変化や動向に関する問題が出題されることがあります。しかし、それらの内容は、高校での学習範囲内で解答できるレベルとなっています。したがって、教科書や資料集に目を通すだけではなく、新聞や報道などに示された図表やグラフなどについて、それらが意味すること、また、その変化や傾向、趨勢などが、社会にどのような影響を与えてきたのか、あるいは、与えようとしているのかを意識しながら、政治・経済が実社会と関連があるということ意識しながら学習に取り組んで下さい。

出題意図：総括

政治経済の入学試験の出題意図は、政治・経済ならびに、それらの社会への影響などについて、基本的な内容を理解しているかを問う問題により全体が構成されています。したがって、高校で学ぶ範囲の政治・経済に関するキーワードを直接問う設問が相当数あります。その中には、直接解答欄に用語を記入する形式の質問を採用しています。その意図は、関連用語の意味を単に認識しているだけではなく、直接記載することにより、そのキーワードを正しく理解できているか、また、大学に入学してから課される講義レポートや卒業論文など、文章を書く際にキーワードが正しく使用できるか確認するためでもあります。

次に、試験の所要時間に対して設問数はそれほど多いとはいええないかもしれません。しかし、問題では記述を読んだ上でその成否を判断したりする形式の出題形式も含まれているものもあります。また、設問の中には、正しい文章を読んで正解を解答するだけではなく、

図表やグラフなどからその推移を読み取り、それらがどのようなことを示しているのかを問う設問も出題されています。これら出題の意図は、高校において、政治・経済に関する基礎的な知識を学んできたかを理解することはもとより、大学に入学してから、さらに学び続けるための基礎学力を確認し、社会の変化に対する思考力や判断力を測る意図があります。以上、本学における政治・経済に関する試験出題意図の総括となります。